



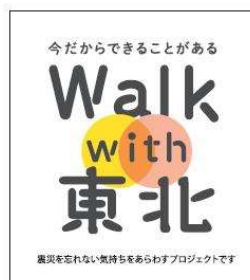
かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

【 2021年度 年次報告書 】

《2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画》

2022年4月1日

(更新：2022年4月1日 v11.0)





目次

1	当団体について	3
1.1	設立趣旨書.....	4
1.2	活動基本.....	5
1.3	活動方針.....	6
1.4	活動実績.....	8
1.5	組織概要.....	33
1.6	会員制度.....	33
1.7	団体登録先・情報登録先.....	34
1.8	当団体運営.....	35
2	2020年度活動実績（令和2年度）	37
2.1	福島 of 課題.....	37
2.2	活動方針.....	37
2.3	活動目的.....	38
2.4	全体事業実績（概要）	39
2.5	事業詳細.....	42
2.6	2020年度の役員・スタッフ.....	53
2.7	2020年度総括（令和2年）	55
3	2021年度活動計画（令和3年度）	57
3.1	福島 of 課題.....	57
3.2	活動方針.....	57
3.3	活動目的.....	58
3.4	全体事業計画（概要）	59
3.5	事業詳細.....	62
3.6	2021年度の役員・スタッフ.....	70
3.7	最後に	72
4	補足資料	73
4.1	福島 of 避難指示解除の経過.....	73
4.2	活動様子（年度毎、事業毎の記録・写真）	74
4.3	2021年度の活動日程（計画、一部抜粋、状況により変更あり）	100



1.当団体について



1 当団体について

当団体は、ボランティアとして2011年5月より岩手県に3分の1、宮城県に3分の1、そして福島には個人で3分の1として福島応援の活動を進め、2011年10月より福島応援隊として有志の応援をいただき活動をさらに一歩前に進め、2012年1月11日に“kfop”を設立しました。

活動に当たっては、設立前の約半年間、福島にボランティアバスを出すべく、事前準備を進めましたが、福島へバスをなかなか出していただけでない現実、ボランティアバスを出すことへの理解がなかなか得られない現実、活動に理解がなかなか得られない現実がありました。そんな環境の中、バスは横浜の『シティアkses株式会社』様に出していただきました。活動先はスタッフが現地へ赴き、受け入れ調整をさせていただきました。

設立当初の2012年度の主な活動としては

(1) 現地活動

福島市の福島市社会福祉協議会募集のボランティア（渡利地区、大波地区）。
福島市の任意団体の復興応援活動（借上げ住宅・近隣にお住まいの皆様、応急仮設住宅に）。
南相馬市の鹿島区社会福祉協議会募集による小高区での屋外活動（山側、海側、街中）。
南会津での大熊町の子どもたちを対象とするイベント支援活動。
最終の福島12便は、福島復興プロジェクトチーム「花に願いを」で活動。

(2) 県内活動（神奈川県内での活動）

神奈川県内に避難を余儀なくされている皆様へのお手伝い、避難されている方々の気持ちは私たちには十分には分からないかも知れませんが、少しでも近づければ、との気持ちで。
かながわ東日本大震災県内避難者支援ネットワークに協力し、弁護士よろず相談会。
同、町別（浪江町、双葉町、富岡町、楡葉町、大熊町）交流会。
同、また共催し「ふるさとコミュニティ in かながわ」の県内全体の交流会。
など、活動および協力ができました。

(3) 当団体の応援者は

2012年1月末時点で48名、2013年3月末に置いては167名（内会員は119名）と多くの方に応援をいただくことができました。2022年3月31日現在のメンバーは290名。

2011年度から、現在までの活動履歴は当団体HPに掲載しています。

2022年度も福島の応援を続けていく。

ご参加いただきました皆様、応援をいただきました皆様、寄付をいただきました皆様、支援金をいただきました皆様、そして私たちを受け入れてくださいました現地の皆様、交流会にお越しいただきました避難されている皆様（県外からもお越しいただきました）、同じく交流会にご協力をいただきました行政の皆様に感謝いたします。

かながわ「福島応援」プロジェクト
代表 渡辺孝彦



1.1 設立趣旨書

1.1.1 趣旨

2011年3月11日に地震と津波による被害を受けた東京電力第一原子力発電所は、全電源を喪失して原子炉の冷却ができなくなり、大量の放射性物質放出を伴う重大な原子力事故に発展した。これにより浜通り地域を中心に、周辺地帯の住民は長期の避難と、福島県の住民へのいわれなき差別、いじめ、風評被害、観光の打撃と、今も大きな苦難を強いられています。

かながわの「かながわ東日本大震災ボランティアステーション」では岩手県・宮城県に向けて活発な支援が続けられていますが、福島県への支援は今なお実現していません。

また、福島県は今もなお復旧に至らず、復興ままならない状況下にあります。

その中で、福島県に住んでいる方々、福島県から避難される方それぞれの方へ応援をしていきたい。神奈川県から「福島を応援する」その主旨で、かながわ「福島応援」プロジェクトを設立するものです。

1.1.2 活動

- (1) 直接活動（家屋内外の片付け、街中掃除、仮設訪問、子どもたち支援等をしていきたい）
- (2) 県内支援（神奈川県内、関東圏に避難されている方へのお手伝い）※1
- (3) 情報発信（福島県での活動、観光情報、温泉情報、特産物情報、など発信したい）
- (4) 災害復旧支援（地域を特定せず、台風や豪雨等の自然災害による甚大被害が発生したとき、現地の要請に基づきその復旧支援等を行う。）※2

を行い、今までと同じように笑顔があふれ、子どもたちも楽しく・のびのびと遊んでいる福島県であることを願い活動を展開し、また、神奈川県から応援の輪を広げるために、多くの方の参加者を募り活動していきたい。

1：(2)の県内支援活動は設立当初はなく、私たちは現地福島に直接行きお手伝いする、神奈川県内に避難されている方のことは神奈川県に住む方で応援してほしい。その思いでありましたが、県内での応援もまだまだ十分ではなく、必要、と感じ2012年度に活動を追加したものです。

※2：(4)の災害復旧支援は平成27年台風第18号を受け2016年度に明確化した。

1.1.3 経緯

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| 2011年10月11日 | ボラステ※3のボランティア活動と平行して活動を開始（発起） |
| 2011年10月29日 | ボラステのボラバスチームメンバー参加により福島市ボランティア参加 |
| 2011年12月28日 | スタッフ含めた参加者の募集、本格設立へ行動（36人が賛同） |
| 2012年1月9日 | 初会合（賛同出席者16名） |
| 2012年1月11日 | 設立日とする。 |

※3：ボラステとは「かながわ東日本大震災ボランティアステーション」のこと。

2011.10.11

かながわ「福島応援」プロジェクト
設立代表 渡辺 孝彦

1.2 活動基本

かながわから福島を応援します。

非営利の任意ボランティア団体として、現地活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内を含む関東圏での活動）、情報発信（広く一般の方に）の3つを活動の基本、柱として、できることを少しずつでも進めます。

1.2.1 現地活動

福島県から避難される方、避難されている方、福島県に住む方へできることのお手伝いを**現地**で**直接**行う。他団体へ参加、連携を含めて福島復興、元気につながる活動を行う。

- (1) 県民が生活される場の街中掃除等ボランティア活動
- (2) 福島県内のご自宅の庭の手入れ・家屋内の片付けなど
- (3) 仮設住宅、借上げ住宅、新たな住居に住まわれている方へのボランティア活動など
- (4) 福島の地域復興の応援。

1.2.2 県内活動

神奈川県および近郊に避難されている方の交流会、お手伝い。および被災地自治体、団体・神奈川県内の自治体、団体とのつなぎ手として支える活動を行う。

1.2.3 情報発信

福島県でのボランティア活動、観光情報、温泉情報、特産品情報など「現地活動」「視察研修」「講演会」「美味しいふくしま伝え隊」などを通して**福島の元気に、笑顔につながる情報を発信**する。

1.2.4 災害復旧支援

地域を固定せず、台風や豪雨等の自然災害による甚大被害が発生した際には、現地の要請に基づきその**復旧支援等**を行う。

そして、今までと同じように笑顔があふれ、子どもたちも楽しく・のびのびと遊んでいる福島であることを願います。

さらに、神奈川からつながりの輪が大きくなり、多くの方に福島を訪れていただけることを願います。

1.3 活動方針

1.3.1 はじめに

「福島応援」の形も少しずつ変化してきています。避難指示の解除が段階的に進む中で、帰還された方、帰還を迷われている方、避難先で生活再建を目指されている方、新たに移住した方、それぞれの立場と気持ちを尊重しながら、ふるさととの精神的なつながりの維持、コミュニティづくり、交流などが必要とされています。福島に住む方々の心情も、復旧から復旧・復興へ向けて、支援する側・される側ではなく、お互い対等な立場で共に動こうという方向性に変化してきています。私たちも、現地の状況を確認しながら、一緒に活動できる関係を築いていきたいと考えています。

- ・ 避難を余儀なくされた方は、まだまだ先が見通せない中で前に進んでいます。
- ・ 福島に戻られた方や、新たに移住した方も、震災以前とは違う環境でありながら、前向きな気持ちで頑張っています。
- ・ 福島に住む方は、支援ではなく「ぜひ遊びに来て、楽しんで」と歓迎してくれます。

私達は「福島応援」を掲げて活動する団体です。

- ・ 「福島応援」の名は、上から目線と感じさせてしまう場合もありますが、活動を始めたときからの想いがある名前です。
- ・ 復旧から復旧・復興へ向けて、支援する側・される側ではなく、お互い対等な立場で共に動こうという精神を活動方針として、これからも進みます。
- ・ 楽しい企画も考えていきます。
- ・ 皆さんもそんな方針を理解して一緒に進んでいただけることを願います。

(追記：2020.4.1)

1.3.2 長期的方針

私たちは、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故によりいまだ大きな苦難の中にある福島を長期にわたって応援し続けるために、持続可能な事業計画と予算計画を立てて団体としての活動を維持します。

いずれの活動についても、当事者の方々が必要とする支援や環境は時間とともに変化します。特に相双地域では避難区域の解除が進み、さまざまな課題が発生してくると見られます。そうした変化を理解し、柔軟に対応できる体制、予算的な余裕、他団体とのつながりも必要です。その一貫として、現地の状況を把握するための情報収集、現地の行政や民間団体とのつながりの維持を目的とした現地訪問や会議への参加も積極的に行います。

同時に、神奈川をベースとしながら長期的に現地に関わっていける連携先も模索していきます。

(1) 当団体の活動は

何が無くても福島に行く、その心づもりが基本となります。

福島の復旧・復興を願う。



福島の観光・温泉・果物・農産物などの応援をする。

福島の子どもたち、避難を余儀なくされている皆様に少しでも応援になることをする（重きを置くこと）。

(2) 福島の活動においては

ご家族の理解も得て行う。

(3) スタッフ、参加者ともに無理はしない

できることを

できるときに

できる範囲で

(4) 活動のすべて

- ・ kfop 日程表、プロフィール、活動内容、設立趣旨、団体規約、事業計画兼活動報告、活動履歴、会員募集、ご寄付、会計報告
- ・ 講演会・集い
- ・ ボランティア募集情報
- ・ 現地活動の様子
- ・ 神奈川県内での活動
- ・ 災害復旧支援
- ・ 更新情報

など、長く福島の応援を続けることができるために、すべての情報を、当団体の HP で公開しています。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

1.4 活動実績

1.4.1 現地活動（他事業の活動も含む）

年度	活動先	実施回数	参加者数
2011	小名浜復興センターボランティア	毎週末	(1名)
	いわき市復興センターボランティア	毎週末	(1名)
2011	福島市大波地区ボランティア	6回	29名
	小計	6回	29名
2012	福島市渡利地区ボランティアバス	3回	57名
	福島市復興応援ボランティアバス	6回	155名
	南相馬市小高区ボランティアバス	2回	67名
	会津若松市（大熊町）ボランティア	1回	6名
	福島市「花に願いを」ボランティアバス	1回	22名
	小計	13回	307名
2013	福島市渡利「花見山公園」花見バス	1回	23名
	福島市「花に願いを」ボランティアバス（他3回中止）	8回	136名
	静岡県西伊豆町水害ボランティアバス（他1回中止）	1回	21名
	南相馬市小高区ボランティアバス	5回	96名
	小計	15回	276名
2014	福島市渡利「花見山公園」花見バス	1回	17名
	福島市「花に願いを」ボランティアバス	2回	4名
	南相馬市小高区ボランティアバス	10回	159名
	福島県内応急仮設住宅等訪問	4回	5名
	小計	17回	185名
2015	視察研修便（富岡町、大熊町）	2回	37名
	南相馬市小高区ボランティアバス	10回	160名
	川内村訪問・支援活動	1回	6名
	現地自治体等訪問（現地訪問）除く講演依頼等	1回	2名
	双葉郡未来会議	1回	2名
	小計	15回	207名
2016	南相馬市小高区ボランティアバス	8回	129名
	視察研修便（双葉町、浪江町）	2回	41名
	その他現地活動（含む有志野馬追）※有志活動	4回	13名
	災害復旧支援（発生時）	0回	0名
	現地自治体等訪問（維持管理）除く講演依頼等	1回	2名
	小計	15回	185名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

年度	活動先	実施回数	参加者数
2017	南相馬市小高区ボランティアバス（バス便）	5回	84名
	南相馬市小高区ボランティア（広域便）	4回	36名
	川内村ボランティア（広域便）	2回	8名
	葛尾村ボランティア（広域便）	1回	5名
	浪江町ボランティア（広域便）	2回	12名
	視察研修便（川内村・葛尾村）	1回	16名
	現地自治体等訪問（維持管理）	3回	6名
	その他現地活動（相双ボラ、野馬追等）※有志活動	2回	8名
小計	20回	175名	
2018	浪江町ボランティア（バス便・広域便）	8回	81名
	浪江町ボランティア（相双ボランティア）	1回	8名
	川内村ボランティア（広域便）	5回	29名
	葛尾村ボランティア（広域便）	2回	18名
	視察研修便（相馬市、新地町）	1回	10名
	その他（原発視察、野馬追、金水晶田植）※有志活動	3回	14名
	福島訪問（維持管理他）	3回	6名
小計	23回	166名	
2019	川内村ボランティア（広域便）（他2便中止）	5回	30名
	葛尾村ボランティア（広域便）	2回	14名
	飯舘村ボランティア（試行便）	1回	2名
	ビーチクリーンバス便（相馬市1回、新地町1回）	2回	22名
	視察研修便（富岡町、大熊町、楡葉町木戸川漁港）	1回	15名
	災害復旧支援（南相馬市・本宮市、いわき市）（他いわき市1便が雨天中止）	2回	10名
	福島訪問（維持管理他）	3回	5名
	小計	16回	98名
2020	・福島119便,120便,121便,123便,124便,126便,127便,128便,129便,131便,133便,134便の計12便の実施を新型コロナウイルスにより見合わせた。	0回	0名
	・11/14-25 視察研修130便の実施を同じく見合わせ	0回	0名
	・10/24-25 コットン畑交流会「風と遊ぶ農園はばたけ」	1回	1名
	・02/14 葛尾村祝言式（オンラインで参加）	1回	2名
	・福島訪問（感染防止を図り8/8,9/6-7,11/21-22実施）	3回	6名
小計	5回	9名	
2021	・04/10-11 福島135便（浪江町+富岡コットン交流会）	1回	6名
	・11/20-21 福島145便（視察研修：双葉町、浪江）	1回	11名×2
	・12/11-12 福島147便（視察研修：請戸、小高）	1回	4名×2
	・現地活動の福島137,138,139,141,142,143,149の	0回	0名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画》

年度	活動先	実施回数	参加者数
	計7便は新型コロナ禍により見合わせた。 ・維持訪問の福島136,140,144,146,148の 計5便は新型コロナ禍により見合わせた。	0回	0名
	小計(延べ)	3回	42名
	全体合計(概数)	148回	1,679名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

1.4.2 連携活動

年度	活動先	実施回数	参加者数
2011	冬物衣料お渡し参加 (チームぼかぼか)	1回	1人
	福島キッズスタッフ参加 (福島キッズ)	3回	3人
	ふくしまボランティアフェスティバル (飯坂)	1回	6名
	Epc 福島に寄り添う会 (青山国際大学)	2回	1名
2012	Epc 福島に寄り添う会 (青山国際大学)	1回	1名
	大波城址ひまわり播種 (大波地区)	2回	5名
	福島キッズスタッフ参加 (福島キッズ)	3回	3名
	郡山市開成高校演劇	1回	1名
	福島シネマプロジェクト (飯坂温泉)	1回	2名
	神奈川建築安全協会 (活動報告会)	1回	3名
	第1回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	第2回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	町別交流懇談会・”しゃべりば”・弁護士相談会	22回	協力
2013	南相馬市応急仮設住宅	1回	3名
	ふるさとバス	2回	協力
	第3回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	第4回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	町別交流懇談会・お茶っこ会	12回	協力
	福島の食と地酒を楽しむ会 (日経ホール)	1回	7名
	分かち合いセミナー (飯田橋)	1回	3名
2014	第5回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	第6回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	町別交流懇談会・お茶っこ会等	20回	協力
2015	特定非営利法人かながわ避難者と共にあゆむ会	各回	各人
	避難者交流の場「ふれ愛」	1回	2名
	町田餅つき	1回	2名
双葉郡未来会議 (郡山)	1回	2名	
2016	特定非営利法人かながわ避難者と共にあゆむ会	各回	各人
	古殿町 (田植え・稲刈り・案山子作り)	1回	2名
	南相馬市交流懇談会 (南相馬市協力依頼)	2回	6名
	相馬野馬追	1回	6名
	ふるさと未来創造会議 (葛尾村)	1回	1名
	相模原市交流会 (ぶーたん)	1回	2名
	着付け・写真撮影 (相模女子短大)	1回	2名
	双葉八町村会議 (広野町)	1回	2名
	相双ボランティア	1回	2名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

年度	活動先	実施回数	参加者数
	そうま食べる通信 (横浜)	1回	2名
	JCN・や・ゆ・よ・Skype 会議	1回	1名
2017	特定非営利法人かながわ避難者と共にあゆむ会	各回	各人
	端数倶楽部 MTG (県サポ)	1回	5名
	端数倶楽部運営委員会 (活動紹介)	1回	1名
	相馬野馬追	1回	6名
	バス運営セミナー (TVAC)	1回	1名
	大熊町ふるさと応援隊 (活動報告会協力)	1回	3名
	南相馬市社協感謝祭	1回	2名
2018	特定非営利法人かながわ避難者と共にあゆむ会	各回	各人
	とみおかさんがねか? (町田)	1回	2名
	相馬野馬追	1回	5名
	原発視察参加	1回	8名
	葛尾村 結の米作り (下枝様)	2回	18名
	F's pocket 金水晶稲刈り	1回	2名
	葛尾村イベント (秋葉原)	1回	3名
	葛尾村の新米を食べる (下枝様)	1回	4名
	アズビル (株) 伊勢原工場 防災講話(講師紹介)	1回	1名
	H.I.S ふくしま感謝祭 (菅野様)	1回	2名
	ソトコト取材	1回	2名
	おだかぷらっとほーむ (わんこそば、廣畑様)	1回	2名
	上映「新地町の漁師たち」	1回	30名
2019	NPO 法人かながわ避難者と共にあゆむ会理事会・総会	1回	1名
	市民活動フェア企画部会	1回	1名
	市民活動フェア 2019	1回	14名
	台風 19 号連絡会	7回	13名
	台風 19 号バス運行連絡会	1回	0名
	内閣府主催防災会	1回	1名
2020	WEB 市民活動フェア 2020	1回	1名
	09/24 小高駅発「Way-Way」Vol.3 (オンライン)	1回	1名
	09/25 双葉 8 町村しゃべくりエイト(オンライン)	1回	2名
	09/26 JCN3.11 の今が分かる会議 1 (オンライン)	1回	2名
	12/19-23 でれすけ (葛尾村) 発売	1回	13名
	01/14 Tregion 伊達 (りょうぜん漬け他) (オンライン)	1回	1名
	01/24 相模原市社協公開講座	1回	2名
	02/16 日本のお酒の味 (オンライン)	1回	1名
	02/27 fukunomo2 月 (オンライン)	1回	1名
	03/06 山形県長井市利酒コンサート (オンライン)	1回	1名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画》

年度	活動先	実施回数	参加者数
	03/06 第1回大天狗イベント(オンライン) 03/11 あうたび鈴木酒造・アルカディア (オンライン) ※コロナ禍においてオンラインイベント参加を促進した	1回 1回	1名 2名
2021	05/22 葛尾村の田植え(オンライン) 市民活動フェア 2021 (他運営委員会) 06/23 JCN 総会 07/25 福島学 07/30 Jvoad 勉強会 08/29 いわゆる処理水 03/08 SSVN 運営委員会 03/09 azbil みつばち倶楽部 カンファレンス MTG 03/23 azbil みつばち倶楽部 カンファレンス (講演)	1回 1回 1回 1回 1回 1回 1回 1回 1回	1名 2名 1名 0名 1名 1名 1名 1名 1名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

1.4.3 視察研修

年度	実施日	視察先	参加者	協力
2015	2015. 4.11-12 (1号)	富岡町	20人	富岡町 株式会社 報徳観光 白鳥温泉 春木屋旅館 特定非営利活動法人ザ・ピープル
	2015. 10.24-25 (2号)	大熊町	17人	大熊町、大川原復興拠点 特定非営利活動法人 大熊町ふるさと応援隊 好間工業団地第三応急仮設住宅自治会 Jヴィレッジ、福島給食センター 株式会社 報徳観光 白鳥温泉 春木屋旅館
2016	2016. 5.28-29 (3号)	双葉町	20人	双葉町 いわき・まごころ双葉会 田人おふくろの宿 シティアクセス株式会社
	2016. 10.22-23 (4号)	浪江町	21人	浪江町 社会福祉法人 浪江町社会福祉協議会 大堀相馬焼協同組合 陶芸の杜 おおぼり 二本松 工房 ヘルシーパルあだたら シティアクセス株式会社
2017	2017.10.28 (5号)	葛尾村	17人	一般社団法人 葛力創造舎 代表理事 下枝浩徳様 葛尾村 社会福祉法人 葛尾村社会福祉協議会 松本邦久様 (実証田圃場) 川島博幸様 (地元の方、葛尾村社協職員) カフェ嵐が丘 堀江安則様、みどり様 みどりの里 せせらぎ荘
	2017.10.29 (5号)	川内村	17人	川内村商工会 会長 井出茂 様 川内村 井出寿一 様 (元・川内村復興課長、現・福島発 電株式会社 浜通り事務所 所長) 秋元洋子 様 (元・川内へ迎える会 会長、現・川 内村婦人会 会長) かわうちワイン株式会社 社長 高木亨 様 いわなの郷 (コテージ、レストラン幻魚亭) Café Amazon (コドモエナジー株式会社 川内第 一工場長 川口司朗 様)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

年度	実施日	視察先	参加者	協力
2018	2019.02.17 (6号)	相馬市	10人	相馬市 企画制作部 企画政策課 課長補佐兼復興推進 係長 荒川誠 様 企画制作部 企画政策課 復興推進係 主査 星杏奈 様 千客万来館 管野昌孝 様(相馬観光復興御案内 処) 復興支援員 主任 井島順子 様 小幡 広宣 様(そうま食べる通信共同編集長/ 株式会社広栄土木 代表取締役) ホテルみなとや (女将 管野忍様) 一般社団法人そうま食べる通信 (常世田 隆様、 飯塚哲生様、黒田夏貴様)
	2019.02.18 (6号)	新地町	10人	新地町 復興推進課 専門官 加藤泉 様 復興推進課 専門官 吉本幸弘 様 復興推進課 コミュニティ支援員 川上照美 様
2019	2019.11.16 (7号)	富岡町	15人	平山 勉 様 (相双ボランティア代表、双葉郡未来会議事務 局、有限会社ホテルひさご代表平山"two"勉) ふたばいんふお 富岡ホテル 支配人 渡辺信一 様
	2019.11.17 (7号)	大熊町	15人	一般社団法人おおくままちづくり公社 事務局長 高田吉弘 様
	2019.11.17 (7号)	木戸川 漁協 (檜葉町)	15人	木戸川漁業協同組合 鮭ふ化場長 鈴木謙太郎 様
2020	2020.11.14 -15 (-号)	双葉町 他	0人	新型コロナウイルスにより実施を見合わせた。 双葉町長など事前訪問
2021	2021.11.20 -21 (8号)	双葉町 浪江町	11人	双葉町 双葉町ご協力 一般社団法人ふたばプロジェクトご案内 事務局長 宇名根良平様 嵯川事務局次長、坂井事務局次長、山根様、佐々 木様、山崎様、小泉様、他ご案内 浪江町 宿泊：ホテル双葉の杜 立ち寄り：道の駅なみえ 鈴木酒造 鈴木大介様用



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画》

年度	実施日	視察先	参加者	協力
2021	2021.12.11 -12 (9号)	浪江町 小高町	4人	浪江町 浪江町ご協力 一般社団法人まちづくりなみえ ご案内 事務局次長 菅野孝明様 南相馬市、小高区 南相馬市サポーター事務局 小高工房 廣畑裕子様 抱月荘 (宿泊先) 高藤明彦様、片岡貴夫様



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

1.4.4 講演会・勉強会（情報発信）

年度	実施日	講演内容
2015	2016. 1. 9 第1回 (講演会)	タイトル：南相馬の今 わたしたちにできること
		講師：小高区役所長 村田博 氏 / 課長補佐 根本剛実 氏 南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター長 鈴木敦子 氏 進行：NPO 法人日本ファシリテーション協会 災害復興支援室 杉村郁雄 氏
		会場：かながわ県民センター2階ホール
		協力：南相馬市 社会福祉法人南相馬市社会福祉協議会、 神奈川県立かながわ県民活動サポートセンター 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 (FAJ)
		広報協力：特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム チームかながわ SUN
参加者数：第一部 114 人、第二部 60 人		
2016	2016. 6. 25 第2回 (講演会)	タイトル：避難指示解除後の檜葉町から語り部をお迎えして
		講師：高原カネ子さん (一般社団法人ならはみらい所属 ならはふるさと案内人)
		進行：東 尚子
		会場：鶴見公会堂 第1・第2会議室
		後援：檜葉町
		協力：一般社団法人ならはみらい 特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会
講演会参加者数：33 人 懇親会参加者数：16 人		
2017. 1. 14 第3回 (講演会)	2017. 1. 14 第3回 (講演会)	タイトル：福島のを伝える講演会「地域ではぐくむ創造の芽吹き」
		講師：廣田拓也さん (二本松市、株式会社 GNS 常務取締役) 和田智行さん (南相馬市、小高ワーカーズベース代表) 下枝浩徳さん (葛尾村、葛力創造舎代表、双葉郡未来会議)
		ファシリテーター：鈴木まり子様 (特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 (FAJ))
会場：かながわ県民センター2F ホール 懇親会 (PRONTO プロント 横浜京急 EX イン店)		



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

年度	実施日	講演内容
		共催：特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム 協賛：azbil みつばち倶楽部 シティアクセス株式会社 協力：かながわ県民活動サポートセンター (=神奈川県) かながわ東北ふるさと・つなぐ会 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 (FAJ) 公益社団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会 一般社団法人葛力創造舎 株式会社小高ワーカーズベース 株式会社 GNS 特定非営利活動法人リーフ (Leaf) 後援：福島県、二本松市、南相馬市、葛尾村、社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会、一般財団法人 神奈川県建築安全協会 講演会参加者数：94 人 懇親会参加者数：42 人
2017	2017. 6. 24 第 4 回 (勉強会)	タイトル： 「富岡町の現状と展望」
		講師：菅野利行さん (富岡町 参事兼郡山支所長)
進行：東 尚子		
会場：鶴見公会堂 第 3 会議室		
後援：富岡町		
		勉強会参加者数：27 人 (うち kfop 会員 20 人、一般 7 人) 懇親会参加者数：22 人
2018. 1. 20 第 5 回 (講演会)		タイトル：ふくしまの農と人をつながる講演会
		講師：第一部 菅野瑞穂さん (きぼうのたねカンパニー株式会社 代表取締役)
		第二部 廣野晶彦さん (あぶくまカットフラワーグループ、花卉栽培農家)
		菅野瑞穂さん (きぼうのたねカンパニー株式会社 代表取締役)
		進行：第一部 東 尚子 第二部 菅野瑞穂さん
		会場：八洲学園大学 7 階 7A 会議室
		共催：かながわ「福島応援」プロジェクト 富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

年度	実施日	講演内容
		協力：特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム 合同会社ふくわらい 協賛：azbil みつばち倶楽部 後援：神奈川県 物販：きぼうのたねカンパニー株式会社 合同会社ふくわらい 講演会参加者数：53 人（うち一般 33 人、登壇・会員 20 人） 懇親会参加者数：28 人
2018	2018. 6. 23 第 6 回 (勉強会)	タイトル：「全町避難から避難指示解除後、現在に至るまでの浪江町の状況と町民の生活再建に向けた浪江町の取り組み」 講師：宮口勝美さん（浪江町副町長） 進行：東 尚子 会場：八洲学園大学 7 階 7A 会議室 後援：浪江町 勉強会参加者数：27 人（うち kfop 会員 23 人、一般 4 人） 懇親会参加者数：19 人
		タイトル：「地域をもっと良くするために！アクションを起こして可能性の種をまく」 講師：第一部 小幡広宣さん （一般社団法人そうま食べる通信共同編集長、広栄土木株式会社 代表取締役） 第二部 小幡さんにここが聞きたい！ （全員、意見交換） 進行：第一部 東 尚子 第二部 東 尚子 会場：かながわ県民活動サポートセンター 3 階 305 会議室 共催：かながわ「福島応援」プロジェクト 富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 協力：一般社団法人そうま食べる通信 認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク 特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 かながわ東北ふるさと・つなぐ会 特定非営利活動法人神奈川災害ボランティアネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム 協賛：azbil みつばち倶楽部 後援：神奈川県、相馬市
2019. 1. 17		第 7 回 (講演会)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021 年度(R03)活動実績・2022 年度(R04)活動計画≫

年度	実施日	講演内容
		講演会参加者数：43 人（うち一般 21 人、登壇・会員 22 人） 懇親会参加者数：17 人
2019	2019. 6. 15 第 8 回 (勉強会)	タイトル：「福島とのさまざまな関わり方と今後の展望」
		講師：鈴木亮さん（一般社団法人ふたすけ 理事／ふたば地域サポートセンターふたすけ センター長） 進行：東 尚子
会場：八洲学園大学 9 階 9A 会議室		
勉強会参加者数：27 人（うち kfop 会員 23 人、一般 4 人） 懇親会参加者数：19 人		
2020	2020. 1. 18 第 9 回 (講演会)	タイトル：「今あらためて福島から学び次世代に伝えるために」
		講師：一般社団法人 AFW 代表 吉川彰浩様（いわき市在住） 進行：東 尚子
		会場：鶴見公会堂 第 1・第 2 会議室
		主催：かながわ「福島応援」プロジェクト 協力：一般社団法人 AFW 特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 かながわ東北ふるさと・つなぐ会 認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム
		協賛：azbil みつばち倶楽部
講演会参加者数：46 人（うち一般 22 人、登壇・会員 24 人） 懇親会参加者数：20 人		
2020	2020. 5. 30 第 10 回#1 (勉強会) オンライン	タイトル：「災害時における広域連携の必要性」
		講師：認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク 代表理事 伊藤朋子さん 進行：東 尚子
会場：Zoom オンライン開催		
勉強会・懇親会参加者数：20 人 ※コロナ禍であり、初めての試みとして事前に 3 回程お試しオンラインの場を設け Zoom オンライン活用による開催とした。懇親会もオンラインで設けた。		
2020	2020. 9. 5 第 10 回#2 (勉強会) オンライン	タイトル：「コロナ禍の活動」
		(1)JVOAD の災害対応ガイドラインおよび研修資料を元にした勉強会 (2)当団体作成「コロナ禍における活動マニュアル」の説明・勉強会 (3)現地活動先の様子について (4)質疑・意見交換（最後に 30 分程）
		講師：渡辺孝彦（kfop 代表） 会場：Zoom オンライン開催



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021 年度(R03)活動実績・2022 年度(R04)活動計画≫

年度	実施日	講演内容
		勉強会・懇親会参加者数：14 人
	2021. 2.6 第 11 回 (講演会)	<p>タイトル：「地域とともにある酒造り」 ～ふるさと浪江町と山形県長井市の 2 地域で酒造りを続けることを決意した鈴木酒造店のチャレンジ～</p> <p>講師：株式会社鈴木酒造店 代表取締役・杜氏 鈴木大介さん 進行：東 尚子</p> <p>会場：Zoom オンライン開催、横浜サテライト会場 中継：株式会社鈴木酒造店長井蔵、一般社団法人まちづくりなみえ、富士ゼロックス福島 端数倶楽部</p> <p>主催：かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop) 協力：株式会社 鈴木酒造店、一般社団法人まちづくりなみえ、一般社団法人やまがたアルカディア観光局、富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部、富士ゼロックス福島 端数倶楽部、一般社団法人 東北支援会+プラス 協賛：azbil みつばち倶楽部</p> <p>講演会参加者数：59 人（オンライン 51 人、会場 8 人） 物販購入：22 人 懇親会参加者数：12 人</p>
2021	2021. 07. 17 第 11 回 (勉強会) オンライン	<p>タイトル：「聞いてみよう、話してみよう、廃炉のこと」</p> <p>(1)話題提供：講師 (2)グループセッション：グループで各自の感じた感想 (3)全体共有：グループで出た主な感想を全体に共有してもらいます</p> <p>講師：未来会議 事務局長菅波香織さん（福島県いわき市在住） 進行：東 尚子</p> <p>会場：Zoom によるオンライン参加+横浜会場 協賛 azbil みつばち倶楽部 協力 未来会議</p> <p>勉強会参加者数：19 人 オンライン懇親会参加者数：17 人</p>
	2022. 01.15 第 11 回 (講演会) <中止>	<p>タイトル：「双葉町～震災から 10 年の歩み、思い、そしてこれから」</p> <p>(1)ご講演：講師 (2)視察研修報告：kfop 平野香誉子 (3)感想・質疑</p> <p>講師：大橋庸一さん（いわき・まごころ双葉会 事務局長） 会場：会場+Zoom オンライン開催</p> <p>協力：いわき・まごころ双葉会、双葉町、一般社団法人ふたばプロジェクト、富士フイルムビジネスイノベーション端数倶楽部、認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク、NPO 法人かながわ避難者と共に</p>



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画》

年度	実施日	講演内容
		<u>あゆむ会、かながわ東北ふるさと・つなぐ会、かながわ災害ボランティアバスチーム</u> (順不同) 協賛： <u>azbil みつばち倶楽部</u>
		講演会申込者数：55人



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

1.4.5 災害復旧支援（主に参加活動）

年度	活動先	実施回数	参加者数
2011	台風 15 号水害支援（郡山市）	2 回	2 名
2013	西伊豆水害復旧支援（幼稚園）ボランティアバス（主催） 市民活動フェア	1 回	21 名
		1 回	1 名
2014	兵庫県丹波市水害支援（参加）	1 回	1 名
2015	栃木水害支援（参加）	2 回	2 名
	神奈川県台風支援 PJ 情報交換会	1 回	1 名
	常総被災地視察	1 回	1 名
	常総ボランティア（参加）	2 回	3 名
	市民活動フェア	1 回	10 名
2016	神奈川県災害救援訓練 市民活動フェア	1 回	1 名
		1 回	16 名
2017	神奈川県支援センター開設訓練 市民活動フェア（311 ネット協力）	1 回	1 名
		1 回	1 名
2018	西日本豪雨災害会議	1 回	2 名
	西日本豪雨倉敷ボランティア	5 回	6 名
	新しい市民活動フェア	3 回	1 名
2019	市民活動フェア企画部会、市民活動フェア 2019	2 回	15 名
	台風 19 号連絡会、台風 19 号バス運行連絡会	8 回	13 名
	内閣府主催防災会	1 回	1 名
	（kfop 主催）災害復旧支援#1 便（南相馬市、本宮市）	1 回	6 名
	（kfop 主催）災害復旧支援#2 便（いわき市）雨天中止	0 回	0 名
	（kfop 主催）災害復旧支援#3 便（いわき市）	1 回	6 名
	（協力）認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワークいわき便	2 回	広報協力
	（協力）かながわ災害ボランティアバスチーム（丸森便）	1 回	広報協力
2020	なし	-	-
2021	なし	-	-



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

1.4.6 維持管理（現地訪問）

年度	活動先	実施回数	参加者数
2011	福島県ボランティアセンター	1回	1名
	福島市社会福祉協議会	2回	2名
	安齋果樹園（飯坂）	1回	1名
	福島市役所	1回	1名
	福島ライフエイド	1回	1名
	福島屋台村	1回	1名
	ふくふくプロジェクト	1回	1名
2012	南相馬ボランティア活動センター	1回	4名
	南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター	2回	2名
	フォレストパーク安達太良	1回	2名
	福島市役所	1回	3名
	大波上組営農（大波城址ひまわり）	1回	3名
	福島りょうぜん漬け本店	1回	3名
	福島県庁、浪江町役場（二本松）、富岡町役場（郡山） 花に願いを、花見山公園	1回 1回	1名 2名
2013	檜葉町役場、いわき市役所、富岡町役場 花に願いを	1回 2回	2名 3名
	かながわ県民活動サポートセンター	1回	1名
	神奈川県庁	1回	2名
	南相馬市役所、南相馬市社協	1回	3名
	南相馬市役所、南相馬市社協、福島県庁、福島市役所、浪江町役場（二本松）、二本松市役所、浪江町社協（二本松）	1回	1名
	花見山公園弔問	1回	1名
	福島県社協、福島市社協、浪江町福島市出張所、笹谷東部仮設、福島大学ボラセン、浪江町役場（二本松）	1回	1名
	平沢応急仮設住宅（富岡町）、笹田東部応急仮設住宅	1回	1名
	南台応急仮設住宅（双葉町）	1回	3名
相模原市社協、相模原市役所、相模原市災ボラ	1回	1名	
2014	福島県庁、福島県社協、南相馬市役所、南相馬市社協	1回	1名
	azbil 面会	1回	1名
	日本橋ふくしま館	1回	1名
	大堀相馬焼協同組合（二本松）、旧松川小応急仮設住宅（飯舘村）、二本松農園、松川第一応急仮設住宅（飯舘村）、松川第二応急仮設住宅（飯舘村）、あぶくま茶屋（かーちゃんの力・プロジェクト）、小田部応急仮設受託、富岡町役場（郡山）	1回	1名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

年度	活動先	実施回数	参加者数
2015	道の駅ふくしま東和、ななくさ農園、NPO 法人コースター、福島市社協、こらっせ福島、かーちゃんの力・プロジェクト協議会、浪江町役場、浪江町社協、大熊町役場、大熊町社協、大熊町ふるさと応援隊、双葉町役場	1回	2名
	南相馬市小高区役所	1回	2名
	FAJ (NPO センター)	2回	2名
	双葉町役場	1回	2名
2016	TB コーポレートセールス横浜	1回	2名
	浪江町役場、富岡町役場、葛尾村役場、	1回	2名
	広野町	1回	1名
	一般社団法人葛力創造舎、川内村役場、川内村商工会議所、小高ワーカーズベース、大熊町応急仮設住宅	1回	2名
	講演会共催依頼 (あゆむ会、311 ネット、ボラバス)	1回	2名
	講演会協力依頼 (県サポ、つなぐ会、JC 青年会議所、廣田様)	1回	2名
	講演会協賛依頼 (シティアクセス(株)、azbil(株)、JTB 横浜、神奈川県建築安全協会)	1回	2名
	FAJ (鈴木様) 県サポ	1回	2名
2017	ふたすけ、浪江町社協、富岡町役場 (副町長)、福島市社協 (佐藤様)、こらっせ福島、福島東和、葛尾村、川内村、かわうちブドウ畑、川内村 Amazon、富岡町内	1回	2名
	視察研修挨拶 (川内村役場 (副村長)、小松屋旅館、いわたの郷、葛尾村役場 (村長)、café 嵐が丘、葛尾村社協、石井食堂)	1回	2名
	ふたすけ、富岡町役場 (副町長)、浪江町社協 (寄贈)、浪江町役場 (副町長)、小高区役所 (区役所長、蕎麦こごた、南相馬市役所、南相馬市社協、道の駅東和、菅野様)	1回	2名
	浪江町社協 (寄贈)	1回	7名
2018	いわき・双葉まごころ会 (お見舞い)	1回	1名
	ふたすけ、浪江町役場 (副町長)、小高区役所 (区役所長)、南相馬市社協、江井さん (火事見舞い)、大熊町 (市川さん)、双葉町役場 (町長)	1回	2名
	ふたばいんふお、まちづくりなみえ	1回	2名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

年度	活動先	実施回数	参加者数
	ふたばいんふお／ふたすけ（平山さん、鈴木さん、下枝さん）、特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま、カフェy、浪江町役場（副町長、今野さん）、浪江町社協（畠山さん）、炙り侍 響（昼食）、南相馬市社協（広瀬常務、村上事務局長、鈴木さん）、おだかぷらっとほーむ（廣畑さん）、小高パイオニアヴィレッジ（場所と外観のみ確認）、小高ストア（場所と外観のみ確認）、小高区復興拠点施設「小高交流センター」、中間貯蔵工事情報センター、みんなの交流館 ならは CANvas（見学）、一般社団法人 葛力創造舎、田村市のみやこじスイーツゆい、川内村あれ・これ市場	1回	2名
2019	福島 106 便(福島訪問 1-28) 2019.05.26-27 渡部様(大熊町)、大橋様(双葉町)、相馬市(星様)、相馬観光協会(遠藤様・井島様)、福島県港湾局(高橋様)、みなとや旅館(菅野様)、新地町(黒澤様・小野様・加藤様)、大熊町(風間様)	1回	2名
	(福島訪問 2-29) 2019.08.04 平山様(富岡町)	1回	1名
	福島 111 便(福島訪問 2-30) 2019.09.08-09 一般社団法人 AFW(代表 吉川様)、木戸川漁協協同組合(鮭ふ化場長 鈴木様)、一般社団法人おおくままちづくり公社(事務局長 高田様)、平山様(富岡町)、富岡ホテル(支配人 渡辺様)	1回	2名
2020	福島 122 便(福島訪問 31) 2020.08.08 ふたすけ(富岡町) 交流事業参加	1回	2名
	福島 125 便(福島訪問 32) 2020.09.06-07 川内村近況伺い：井出寿一様、原力様、井出茂様 双葉町視察研修、講演会等の調整・ご挨拶： ・双葉町役場 伊澤町長、橋本様(元秘書課、現総務課)、相楽課長(生活支援課)、武藤様(生活支援課 専門員)、土屋主査(秘書広報課)、大橋様(いわき・まごころ双葉会 事務局長) ・一般社団法人ふたばプロジェクト事務局長 石上崇様、山根光保子様	1回	2名
	福島 131 便(福島訪問 33) 2020.11.21-22 ・双葉町(東日本大震災・原子力災害伝承館、産業交流センター) ・鈴木大介様への講演会正式依頼(道の駅なみえ～鈴木酒造店長井蔵)、帰路：高畠ワイナリー立ち寄り	1回	2名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021 年度(R03)活動実績・2022 年度(R04)活動計画≫

2021	福島 136 便(訪問#1 維持管理) 2021.05.28-29	見合せ	0 名
	福島 140 便(訪問#2 視察調整) 2021.08.27-28	見合せ	0 名
	福島 144 便(訪問#3 講演調整) 2021.10.29-30	見合せ	0 名
	福島 146 便(訪問#4 維持管理) 2021.11.26-27	見合せ	0 名
	福島 148 便(訪問#5 維持管理) 2022.02.25-26	見合せ	0 名

1.4.7 (参考)

美味しいふくしま (有志活動)

本活動の費用など、当団体の運営費は一切使用していません。個人・有志活動です。

収益が出た場合は、経費を差し引いた残りの全額を、福島への復興・復興に関わる支援団体、赤い羽根共同募金などへ全額寄付しています。

年度	実施日	会場	来場者	協力
2015	2015.8.3 17:00-22:00	復興バー銀座店 銀座	100 人超	有志メンバー
2016	2016.11.9 17:00-22:00	復興バー@銀座 青山 TRUNK HOTEL	100 人超	有志メンバー
2017	2017.7.8 15:00-21:30	復興バー@銀座 全国うまいもの交流サロンなみへい	100 人超	有志メンバー
2018	2018.8.20 18:00-22:00	復興バー@銀座 秋葉原 日本百貨店食品館特設スペース	100 人超	有志メンバー
2019	2020.1.29 18:00-22:00	復興バー@銀座 銀座 Nu dish deli & café	100 人超	有志メンバー
2020	見合わせ	コロナ禍により見合わせ	なし	なし
2021	見合わせ	コロナ禍により見合わせ	なし	なし



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

1.4.8 ご寄付・寄贈

寄付専用口座を持ち、HP 掲載にて広く一般からの寄付（寄付・支援金・助成金）を受け入れる。ご寄付・支援金・助成金は、すべて HP に掲載し、その用途もすべて会計の HP に掲載する。多くの皆様からのご寄付・ご支援に感謝申し上げます。

《ご寄付・支援金等実績》

年度	項目	金額	ご寄付・支援元
2012	寄付・寄贈	403,822 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	助成金 (寄付)	300,000 円	一般財団法人 神奈川県建築安全協会 様
2013	寄付・寄贈	472,571 円	一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	支援金 (寄付)	300,000 円	リコー社会貢献クラブ・FreeWill 様
	助成金 (寄付)	500,000 円	一般財団法人 神奈川県建築安全協会 様
	支援金 (寄付)	100,000 円	富士ゼロックス神奈川(株)端数倶楽部 様 富士ゼロックス神奈川株式会社様 (マッチング制度)
2014	寄付・寄贈	253,545 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	助成金 (寄付)	200,000 円	一般財団法人 神奈川県建築安全協会 様
	支援金 (寄付)	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度)
2015	寄付・寄贈	604,461 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	支援金 (寄付)	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度)
	支援金 (寄付)	100,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様 (マッチング制度)
	助成金	210,000 円	赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」助成事業 16K-010 (南相馬市小高区活動)
		231,000 円	赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」助成事業 18K-005 (南相馬市小高区活動)
2016	寄付・寄贈	286,773 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	支援金 (寄付)	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度)
	支援金 (寄付)	100,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様 (マッチング制度)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021 年度(R03)活動実績・2022 年度(R04)活動計画≫

年度	項目	金額	ご寄付・支援元
	賛助金	30,000 円 (30,000 円)	シティアクセス株式会社 様 (azbil みつばち倶楽部 様)
	寄付 (一般)	5,000 円	初参加者向け用 目的別寄付
	寄付 (一般)	51,200 円	最少定員未達時用 目的別寄付
2017	寄付・寄贈	305,538 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	支援金 (寄付)	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度) 11/29 支援金を事業へ充当 (事業 1 : 95,000 円、 事業 6 : 50,000 円、事業 7 : 55,000 円) ※事業 1 : 福島 80 便、福島 81 便に充当。
	支援金 (寄付)	200,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様 (マッチング制度) 寄付 (事業 1 : 52,000 円、事業 6 : 48,000、維持 管理 : 100,000 円充当) ※事業 1 は福島 80 便、福島 81 便に充当。
	賛助金	(30,000 円)	(azbil みつばち倶楽部 様)
	寄付 (一般)	54,500 円	初参加者向け等、バス寄付 4/22 福島 72 便に 2 口充当 26,000 円。12/9 福島 80 便に初めて 2 名へ 10,000 円充当。 2/23 福島 81 便に 3 口充当、残額は帰路感謝の集 い参加者バス分へ充当 3,000 円/1 口。
	寄付 (一般)	138,500 円	浪江町社協への寄贈品寄付 2018. 3. 18 最終寄贈 (明細は寄付者へ提示済み)
	寄付・寄贈	408,520 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈、 一般社団法人 東北支援会+プラス様 50,000 円 (お名前は HP 掲載)
2018	支援金 (寄付)	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度) 支援金は事業へ充当 (事業 1 : 100,000 円、事業 3 : 10,000 円、事業 4 : 30,000 円、維持管理 60,00 円) させていただきました。
	支援金 (寄付)	200,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様 (マッチング制度) 支援金は事業費へ充当 (事業 1 : 80,000 円、事業 3 : 20,000、事業 4 : 160,000 円、維持管理 : 40, 000 円充当) させていただきました。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画》

年度	項目	金額	ご寄付・支援元
	寄付（一般）	23,000 円	南相馬市小高区に戻られた方への火事見舞い 19名
2019	寄付・寄贈	453,842 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	支援金（寄付）	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様（マッチング制度） 支援金は事業へ充当
	支援金（寄付）	100,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様（マッチング制度） 支援金は事業費へ充当
2020	寄付・寄贈	277,068 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (寄贈：プリンターインク、切手、印刷用紙、団 体名ゴム印) (お名前等の詳細は HP 掲載)
	寄付（使途指 定）	24,000 円	Zoom オンライン使用料（都度契約から年額契約へ 変更）
	支援金（寄付）	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様（マッチング制度） 支援金は事業へ充当
	支援金（寄付）	50,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 支援金は 事業費へ充当
2021	寄付・寄贈	279,984 円	会員・一般の方からの寄付 (お名前等の詳細は HP 掲載)
	支援金（寄付）	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様（マッチング制度） 支援金は事業へ充当
	支援金（寄付）	50,000 円	富士フイルムビジネスイノベーション 端数倶楽 部 様 支援金は事業費へ充当

1.4.9 当団体からの寄付・寄贈

当団体から、会員に内容を示し寄付・寄贈を行った内容。

年度	項目	品目等	寄付・寄贈先
2012	寄贈	支援物資	双葉町の避難先（埼玉）へ生活物資支援。 トイレットペーパー252、ロールテッシュ 420 箱、 ペットボトル水 288 本
	寄贈	刈払機 1 台	南相馬市生活復興ボランティアセンター
		刈払機 1 台	南相馬市ボランティア活動センター
	寄贈	鎌 10 本	南相馬市生活復興ボランティアセンター
	寄贈	桜の植樹他	花見山を守る会。桜の植樹（2 口）、鎌 8 本、種 （ひまわり・アブラナなど）
	寄付	10,000 円	ふくしまキッズ
	寄付	50,000 円	福島市（こども支援、花見山・花見山周辺整備）
2013	寄付	50,000 円	福島県（避難者支援）
	寄贈	十能	西伊豆社会福祉協議会（台風水害支援）
	寄付	10,000 円	NPO 法人かながわ 311 ネットワーク
	寄付	10,000 円	福島復興プロジェクトチーム「花に願いを」
	寄付・拠出	240,000 円	かながわ避難者と共にあゆむ会「ふるさとコミュニティ in かながわ」事業に寄付・拠出
	寄付・拠出	40,000 円	かながわ避難者と共にあゆむ会「交流会」事業に寄付・拠出
2014	寄付・拠出	20,000 円	かながわ避難者と共にあゆむ会「福島支援ふるさとバス運行（年末）」事業に事業に寄付・拠出
	寄付・拠出	130,000 円	かながわ避難者と共にあゆむ会「ふるさとコミュニティ in かながわ」事業に寄付・拠出
	寄付・拠出	50,000 円	かながわ避難者と共にあゆむ会「神奈川県内の避難者同士のコミュニティ作り交流会」事業に寄付・拠出
	寄付	10,000 円	「相双ふくしま子ども病院建設計画」（一般財団法人 相双未来基金） 後日、全体額が目標未達により中止で返金あり
	寄付	10,000 円	復興浜団（追悼復興花火）
	寄付・寄贈	圃場用設備への寄付	NPO 法人ザ・ピープルへ「福島のオーガニックコットン圃場にトイレやビニールハウス設置！」へ 50,000 円相当寄付
2016	寄贈	仮払機	復興浜団へ追悼復興花火に向け草刈りを行うための「刈払機」30,500 円相当



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画》

年度	項目	品目等	寄付・寄贈先
2017	寄贈	資機材	浪江町社会福祉協議会 138,500円相当 刈払機、燃料、替羽、エアコンプレッサー等
2018	お見舞い	23,000円	火事見舞金、南相馬市小高区に帰還の方へ会員から募り“火事お見舞い”
2019	寄贈	土嚢袋 100枚	台風19号 いわき市社会福祉協議会
		土嚢袋 100枚	台風19号 南相馬市社会福祉協議会 (原町)
		土嚢袋 100枚	台風19号 相馬市社会福祉協議会
		土嚢袋 100枚	台風19号 郡山市社会福祉協議会
		土嚢袋 100枚	台風19号 本宮市社会福祉協議会
		水 10箱	台風19号 相馬、2L×9本入り
2020	なし	-	-
2021	なし	-	-



1.5 組織概要

	会議体	目的
(1)	総会	総会は年 1 回開催。 活動報告、活動計画などの運営を決議する。
(2)	定例会	定例会は都度開催。 開催日は定例会で決め議事録とする。
(3)	臨時会議	臨時総会、臨時定例会。 役員が必要と認めたとき、代表が招集する。

1.6 会員制度

	会員項目	役割	年会費
(1)	正会員	入会時、および次年度以降は年 1 回、会費を納入しなければならない。正会員より総会にて役員を選出する。	2,000 円/ 1 口以上
(2)	一般会員	本会の活動を支援する会員とする。	なし
(3)	賛助会員	財政支援の個人・団体の会員とする。入会時、および次年度以降は年 1 回、会費を納入しなければならない。	1,000 円/ 1 口以上
(4)	情報発信	【非会員】 情報発信に許諾いただいた方。	なし
(5)	参加登録	【非会員】 過去、活動または参加応募参加された方。	なし

正会員、一般会員、賛助会員、参加登録メンバーは当団体 ML に登録する。

情報発信メンバーは当団体の情報発信 ML に登録する。

それぞれ、ボランティア募集、講演会案内、各種情報発信を行う。

正会員会費は 2016 年度に 2,000 円/1 口以上とした。

会員番号 kfx999

K	Kanagawa	
F	Fukushima	
X	会員	0 : 正会員 (A : 内ふくしま応援隊) 、1 : 一般会員、2 : 賛助会員
	非会員	8 : 情報発信のメンバー、9 : 参加登録のメンバー
999	一連番号 (001~999)	



1.7 団体登録先・情報登録先

登録先	登録内容・登録日等
かながわ県民活動サポートセンター	利用団体 (2012.01.27 登録)
特定非営利法人 かながわ避難者と共にあゆむ会	団体正会員 (2020.04.16 更新)
NPO 法人 ボランティアインフォ	ボランティア情報登録 (都度)
東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)	会員団体 (2016.02.19 申請)
ふくしま連携復興センター	準会員 (2016.02.29 承認)
広域避難者支援連絡会 in 東京	メルマガ (2016.05.06 登録)
CANPAN FIELDS (団体ID: 1032639997) 4つ★	団体登録 (2016.06.01 登録)
福島市社会福祉協議会	ボランティア活動登録
南相馬市社会福祉協議会	ボランティア活動登録
浪江町社会福祉協議会	ボランティア活動登録
本宮市社会福祉協議会	ボランティア活動登録
いわき市社会福祉協議会	ボランティア活動登録
かづろうさんげ 実行委員会 (葛尾村)	団体登録 (2019.12.06)
横浜市市民利用施設予約システム	団体登録 (2020.01.10 登録)
一般社団法人ならはみらいの「ならは応援団」 (檜葉町)	団体登録 (2020.03.19 登録)



1.8 当団体運営

1.8.1 定例会・管理事項等

定期開催	かながわ県民センター 他、公営、民営の会議室など	11F 会議室 会場とオンラインで開催
議事録	議事録作成・管理	電子ファイルで保管
監事監査	事業、会計の監事監査	四半期毎に実施
寄付・寄贈	HP にすべて掲載	“ご寄付” のページ
会計	HP にすべて掲載	“会計報告” のページ
事業	事業のすべて	HP にすべて掲載

1.8.2 安全対策など

ボランティア活動保険	活動参加者の加入を確認	参加申込時
行事保険	行事实施時に加入	必要都度加入
活動マニュアル	活動場所ごとに作成	電子ファイルで保管
行程表	活動・行程表を都度作成	電子ファイルで保管
仮眠所	運転手仮眠所確保	各、現地で確保
コロナ禍の活動マニュアル	2020 年度新設	コロナ禍の運用

1.8.3 教育関係（自主受講済み事項、ボランティアの一部スキル）（役員）

環境省 水・大気環境局除染等業務に係る特別教育	渡辺孝彦、村上幸
除染等業務作業指揮者教育	村上幸
労働安全衛生法による安全衛生教育（刈払機）	渡辺孝彦、東尚子、村上幸
労働安全衛生法による特別教育（チェーンソー）	渡辺孝彦、東尚子、村上幸
赤十字救急法 救急員	東尚子、村上幸
労働安全衛生法による特別教育修了 （小型車両系建設機械）	村上 幸(2014.05.25 追加)
防災士（NPO 日本防災士機構）	東 尚子(2015.03.19 追加) 村上 幸(2015.12.25 追加)

(注) 掲載は一部（抜粋）

1.8.4 保有備品（個人保有を除く）

TERRA-P	4 台（購入）（活動時の計測管理）	参加者用
TERRA-N	6 台（購入）（活動時の計測管理）	参加者用
メディキタス CK-6	9 台（寄贈）（活動時の積算管理）	参加者用

(注) 活動参加時の計測、積算を記録します。



2.2021年度活動実績

2 2021年度活動実績（令和3年度）

2.1 福島の課題

東東日本大震災から10年である。

必要とされることは、東日本大震災や原子力災害により直接的、間接的に影響を受けた地域の復旧復興を目指し、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等を目指す現地の動きに賛同して「一緒に」活動することである。従来の現地活動だけにとらわれず、現地の人々が始めようとする心の汲み取り、自分の都合を中心にするのではなく、現地の人々に寄り添って活動し、また、災害の教訓を伝え続けることである。

福島を知り、福島を伝え、福島の魅力も伝える。対話で寄り添う。

(福島の避難指示解除の経過は4.1を参照)

2.2 活動方針

はじめに、方針として、当事者の方、個人、行政、団体、企業など様々な方々のそれぞれの立場、環境、想いがあることを知って欲しい。その上で、私達自身ができること、すべきことを考えるきっかけとして頂けたらと考える。

- (1) 2021年度は「会いに行こう」を一つのキーワードに進めていく。
- (2) 2021年度も、コロナ禍にありますが「コロナ禍における活動マニュアル（健康管理、フィジカルディスタンス）」に基づき、出来ることを進めて行く。
- (3) 導入したオンラインを活用して、神奈川県内、福島における活動・情報発信に役立てる。
- (4) 「知る、伝える」、そして「寄り添い」を継続する。
- (5) 役員は2年任期の2年目、変更はない。事業担当も同様である。

ボランティア団体として、以下で活動を進める。

- ・ 活動できる場所であることの判断（安全判断）
- ・ 活動するうえで必要とする知識（安全知識）
- ・ 活動するうえでの現地受入団体の長との情報交換（安全の担保）

現地と情報交換し、現地のニーズを確認したうえで活動を進める。

また、現地とのかかわりは長く続ける。

2.3 活動目的

2.3.1 現地活動

福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために一緒に汗を流し、つながる。

- (1) 福島県内での各種活動にボランティアとして参加して一緒に汗を流し、つながる。
- (2) 福島県内で開催される交流事業に参加し、一緒に楽しみ、心のつながりを育む。

2.3.2 連携活動

被災・避難当事者のためのつなぎ手となり、他団体や行政との連携を図る。

- (1) 神奈川県や周辺自治体、福島県の団体・行政とのつなぎ手として連携する。
- (2) 被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。

2.3.3 視察研修

福島県内の地域を訪問して視察研修を実施し、福島の当時・今・これからの伝えていく。

- (1) 福島の自治体や当事者との信頼関係を醸成したうえで計画、遂行する。
- (2) 視察研修の参加者報告をまとめて報告書とし、情報発信に活用する（伝える）。

2.3.4 情報発信

講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて、福島の現状、生の声を神奈川に伝える。

- (1) 福島から講師を招いて講演会や勉強会を企画し、直接お話を聴く機会を設ける。
- (2) 総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促す。
- (3) 被災地支援や市民活動にかかわるイベント等も活用し広く情報を発信する。

2.3.5 災害復旧支援

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。

- (1) 実際の活動については現地の状況に応じて決定する。
- (2) かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行い、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築く。

2.3.6 維持管理

福島の民間団体や個人、行政とのつながりの維持を目的として福島訪問を行う。

2.3.7 その他

有志活動の「美味しいふくしま」を通して福島の食、文化、地域の魅力を伝える。

食べて応援、風評払拭のため、などの大義を掲げて押しつけるのではなく、純粹に美味しさ、楽しさを通じて魅力を感じていただき、日常に取り入れていただけるように情報提供する。

2.4 全体事業実績（概要）

福島活動の3つの柱である直接活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内での活動）、情報発信を中心とし5つの事業とし、以下に活動（事業詳細）を行う。

事業詳細		計画
《事業1》 現地活動	計画	毎月1便を計画する。 ・現地の方に「会いに行く」をキーワードに可能な活動で進める。 ・現地集合・現地解散、人数を絞ってのレンタカー利用等で進める。 ・現地集合・現地解散の一部旅費交通費は事業費に計上する。
	結果	<u>△新型コロナ禍により現地活動を抑止した。</u> 福島135便（浪江町+富岡コットン交流会）の実施迄。やむなし。
《事業2》 連携活動	計画	他団体や行政と連携し、被災・避難当事者のつなぎ手となるために、年4回まで現地の支援活動、交流会、支援会議等に参加する。 オンライン企画も有効に活用する。
	結果	<u>○新型コロナ禍によりオンライン活動を進めた。</u> WEB 市民活動フェア 2021 運営参加 6/23 JCN 総会出席、7/30 Jvoad 勉強会、7/25 ふくしま学 3/8 SSVN 運営委員会出席 3/9 azbil みつばち倶楽部カンファレンス MTG 3/23 azbil みつばち倶楽部カンファレンス講演
《事業3》 視察研修	計画	視察研修8号。活動と組み合わせての視察や、現地集合・解散で日帰り参加も可能にするなどを検討・立案し行う。福島の当時・今・これからを知る、伝える。動画の記録なども残し活用する。
	結果	<u>◎新型コロナ禍で現地集合解散を取り入れて2回実施した。</u> 11/20-21 福島145便（視察研修8号、双葉町・浪江町） 12/11-12 福島147便（視察研修9号、浪江町・小高町）
《事業4》 情報発信	計画	講演会、勉強会、オンラインイベント等を通じて、福島の現状、生の声を神奈川に伝える。知る機会、伝えることを目的とする。 【勉強会】6月、1回、50人程度、第12回勉強会 【講演会】1月、1回、50人程度、第13回講演会
	結果	<u>○オンラインを導入し計画的に進めたが、講演会は中止となった。</u> 勉強会は計画の通りにオンライン、会場の併用で実施した。 講演会は、計画の通り調整。しかしながら新型コロナ（オミクロン株の蔓延）により直前で中止とした。申し込みは55人であった。
《事業5》 災害復旧支援	計画	国内で自然災害等が発生した場合に現地活動に限らず、動ける体制を整える。実際の活動については現地の状況に応じて決定する。 また、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築く。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画》

事業詳細	計画	
	結果	<p><u>×台風、大雨による被害が発生したが、手を打てなかった。</u> 現地での支援は行わなくとも、地元で出来ることがある。 2019年度の反省が反映されなかった。継続の改善課題である。</p>
《維持管理》 現地訪問等	計画	福島県内の民間団体、個人、行政とのつながりの維持を目的とした現地訪問を年3回、適宜実施する。 視察研修、講演会などの調整は、各事業の計画の中で行う。
	結果	<p><u>△新型コロナ禍で年5回の訪問が行えなかった。</u> 福島との繋がりには、オンラインを活用して取り組んだ。</p>

2021.4.1

2021 年度事業基本計画

活動の 3 つの柱である現地活動（福島県内での活動）、連携活動（神奈川県内を含む関東圏での活動）、情報発信（広く一般の方に）を基本として事業を計画する。

事業 1：現地活動

福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために一緒に汗を流し、つながる。

- (1) 福島県内での各種活動にボランティアとして参加して一緒に汗を流し、つながる。
- (2) 福島県内で開催される交流事業に参加し、一緒に楽しみ、心のつながりを育む。

事業 2：連携活動

被災・避難当事者のためのつなぎ手となり、他団体や行政との連携を図る。

- (1) 神奈川県や周辺自治体、福島県の団体・行政とのつなぎ手として連携する。
- (2) 被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。

事業 3：視察研修

福島県内の地域を訪問して視察研修を実施し、福島の当時・今・これからを伝えていく。

- (1) 福島の自治体や当事者との信頼関係を醸成したうえで計画、遂行する。
- (2) 視察研修の参加者報告をまとめて報告書とし、情報発信に活用する（伝える）。

事業 4：情報発信

講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて、福島の現状、生の声を神奈川に伝える。

- (1) 福島から講師を招いて講演会や勉強会を企画し、直接お話を聴く機会を設ける。
- (2) 総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促す。
- (3) 被災地支援や市民活動にかかわるイベント等も活用し広く情報を発信する。

事業 5：災害復旧支援

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。

- (1) 実際の活動については現地の状況に応じて決定する。
- (2) かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行い、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築く。

維持管理

福島の間団体や個人、行政とのつながりの維持を目的として福島訪問を行う。

その他

有志活動の「美味しいふくしま」を通して福島の食、文化、地域の魅力を伝える。

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

2.5 事業詳細

2.5.1 《事業 1》現地活動

(1) 現地課題

2020 年 3 月 14 日には、常磐線の全線運行再開に伴い、帰還困難区域のうち双葉駅、大野駅、夜ノ森駅の周辺と一部道路について避難指示が解除された。しかし復旧復興のスピードは一樣ではなく、当事者間での格差も生まれている。

一方で、現地の方々や事業者で対応できることは自ら解決する、ある意味で当然とも言える動きもあり、遠方からボランティアに行くこと自体、もう必要ないとの声もある。

この事業では、福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために、現地で必要とされることをお手伝いする。一時的なボランティア活動ではなく、地域を支える一助となれるよう継続的にかかわっていくことも必要である。

継続的にかかわっていくことも含めて、この 10 年の間に関わって来た福島の方々へ会いに行く。また、コロナ禍であり、コロナ禍の活動マニュアルに即して活動していく。

(2) 活動目的

福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために、現地で必要とされることをお手伝いする。

一時的なボランティア活動ではなく、地域を支える一助となれるよう継続的にかかわっていくことも必要であり、毎月一回、現地へ足を運ぶことを継続する。地域とのつながりも醸成する。

(3) 活動実績

(参加者数)

計画	実績
毎月 1 便を計画する。	新型コロナ禍により 7 便の現地活動を見送った。実施は 4/10-1 現地活動コットン畑交流会のみ。やむなしである。

(4) 会計実績

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	328,200	328,200	合計	328,200	66,041
			収支(△繰越)	0	△262,159

(補足 1) 広域便のレンタカー代(含む保険等)は kfop 支払い、他の実費全額は参加者で按分。

(補足 2) 現地集合・解散の旅費・交通費の上限 5,000 円を kfop 経費計上とした。

(5) 活動成果

コロナ禍における活動にあたって、2020 年度に定めたマニュアルに従って活動した。参加者は、実施日の過去 2 週間分の検温記録、チェックシートを提出。スタッフが現地での行動記録も作成している。また、活動から 2 週間の経過観察で発熱等の症状がないことを確認した。

(6) 参加者の声(一部)

- ・コロナ禍による 1 年間の空白だけではないが、現地の変化や人々の動きが見られてよかった。
- ・依頼者の要望にきちんと応える様に意識して作業にあたって欲しいです。
- ・夕食時の感染防止を徹底して頂きたい。感染リスクが高いと言われている場面で気になった。

2.5.2 《事業 2》連携活動

(1) 現地課題

帰還困難区域を中心としていまだ避難を余儀なくされている方々もあれば、家族や仕事などのさまざまな事情により避難を継続されている方々もいる。新たな土地に移住して生活を再建された方々の中にも、故郷とのつながりを持ち続けようと望んでいる方がいる。

また、自治体や社会福祉協議会、民間団体等との情報交換、連携も必要な場合がある一方で、東日本大震災から 10 年目を機に、事業を終了する機関や団体が増えることも予想される。

(2) 活動目的

故郷とのつながりを持ち続けようと望んでいる方々の声に耳を傾け、地域の仲間として共に進んでいく。そのためにも、情報収集に努めながら、当事者や自治体とのつなぎ手として引き続き協力が必要である。

(3) 活動実績

(参加者数)

計画	実績
年 4 回、現地開催の支援活動、交流会、支援会議等に参加する。	葛尾村の田植え、市民活動フェア、JCN 総会、Jvoard 勉強会等オンラインで参加した。 また、長年ご支援をいただいている azbil みつばち倶楽部のカンファレンスに参加させていただき、お話をさせていただいた。

(4) 会計実績

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	80,000	80,000	合計	80,000	0
			収支(△繰越)	0	△80,000

(5) 活動成果

オンライン参加を積極的に行い、多様な交流を進めた。kfop メンバーにも情報発信を行い、参加を促した。費用に関しては、移動等がなく、支出はなかった。

実績に記載の通り、長年ご支援をいただいている azbil みつばち倶楽部のカンファレンスにお声掛けいただき、参加し、お話をさせていただいた。参加は当団体を含めて 3 団体。各団体の活動紹介を azbil みつばち倶楽部様、アズビル株式会社様のみなさんにさせていただいた。当団体も知っていただき、カンファレンス後に当団体の FB へのアクセスも確認した。

2.5.3 《事業3》視察研修

(1) 課題

2020年3月14日には、常磐線の全線運行再開となり、帰還困難区域のうち双葉駅、大野駅、夜ノ森駅の周辺と一部道路について避難指示が解除された。6号線も家屋の取り壊しが進んでおり、街並みは変貌して来ている。中間貯蔵施設により故郷が大きく変貌している。福島に行って、見て、聴いて、様々な当事者の方の声を聴き残していく必要がある。福島に関わるものは、最低限、知って欲しい。知っておくべきことである。

(2) 活動目的

福島にかかわり活動する者として現地の最新の状況を学び、伝えていく必要がある。現地を訪れて、自分の目、耳、体でまず感じる。そして、その上で現地の今を神奈川に伝える。

(3) 活動実績

(参加者数)

計画	実績
【視察研修便8号】1回、参加者20人	2022.11.20-21 視察研修8号(双葉町、浪江町) 2022.12.11-12 視察研修9号(浪江町、南相馬)

(4) 会計実績

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	235,000	265,000	合計	235,000	113,122
			収支(△繰越)	0	△151,878

(補足1) 視察研修便の移動費は、全額事業費を充当した。

(補足2) 9号での宿泊費は8号比割高のため、差額分は事業費を充当した。

(補足3) 活動報告の冊子化は未済であり、2022年度活動の余力を見て対応していく。ホームページへの活動様子掲載は完了している。

(5) 活動成果

コロナ禍(オミクロン株)の蔓延防止等が解除で一旦落ち着いた時期に現地との調整を行い、参加人数等制限、コロナ禍の活動マニュアルを遵守した上で、2便実施した。実施に当たっては、各お受入れ先のご協力を頂戴した。

<福島145便(視察研修8号)>: 11名の参加、一般社団法人ふたばプロジェクトのスタッフのご案内。双葉町の街歩き、双葉町産業交流センターでお二人からお話を伺った。

<福島146便(視察研修9号)>: 5名の参加、午前是一般社団法人まちづくりなみえの菅野様より請戸小学校、請戸漁港、大平山の慰霊碑、棚塩産業団地のご案内。午後は、南相馬市小高区に移動し、小高交流センターで小高工房の廣畑さんのお話を伺った。南相馬市社協の元災害復旧復興ボランティアセンター長の鈴木さんともお会いできた。夜は、原町の「抱月荘」に宿泊し、ご主人の高藤様、徳島から移住された片岡様のお話を頂戴した。朝に近隣の農家さんにも当時のこと今のことを伺った。

(6) 参加者の声(一部)

- ・福島の今を知るには、やはり福島に行くことが一番、そして今回は、現地集合、現地解散で、自分で福島に行くことの学びでもあった。
- ・約2年ぶりの小高の街並みを見ることができました。予想以上に変わっていたように感じた。

2.5.4 《事業 4》情報発信（講演会等）

(1) 課題

東日本大震災、福島県の原子力被災から 10 年である。

避難指示の解除も段階的に進み、顕著な変化が見られるが、復旧復興のスピードは一様ではなく、多くの課題が残っている。しかし 3 月にはメディアの報道が増えるが、それ以外の時期は、一般の方々の関心も薄れ、現状が伝わらない。私たち福島県外に住む者は、関心を薄れさせることなく、福島について知って、学ぶことを続けることが大切である。対話も学ぶ必要がある。また、コロナ禍の情報発信として、オンラインは有効な手段である、引き続き活用していく。

(2) 活動目的

福島にかかわり応援する者として現地の状況と課題を知り、伝える必要がある。それには、被災当事者の方や現地で活動している方、福島にかかわっている方をお招きし、生の声を神奈川に伝えるのが効果的である。現地の方を招き講演会などを継続し、神奈川に福島を伝えていく。

(3) 活動実績

(参加者数)

計画	実績
第 10 回勉強会、第 11 回講演会	【勉強会】7 月、1 回、17 人参加 【講演会】1 月、1 回、50 人強の応募、中止

(4) 会計実績 (単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	418,000	288,000	合計	418,000	69,796
			収支 (△繰越)	0	△218,204

(補足 1) 旅費交通費は講師招致費。また調整打ち合わせ等費用は維持管理費で行う。

(5) 活動成果

- 勉強会は、福島とオンライン接続により開催した。テーマについては、難しい内容であったが、自分事として課題として、大事なことと企画した。
対話=多様な方の声を「聞く」こと、批判しないこと。しかしながら、多様な考えがあること、聞くことに不慣れな方もあり、自身の立場、自身の想い、自身の理解の中で話される方もいた。また、論者についても先入観を持ち違和感を持たれる方もいた。
勉強会の意図の「聴く」が一部に、十分に伝わらなかったこと（意見を言いたい、話を聞くのではなくて活発な話をしたい、などなど）、多様な方の声を聞く、フラットな中で聴いて欲しいがあった。継続してこのような機会は持つべき、大事なこと、と感じた。
- 講演会は、準備万端で臨んだが、オミクロン株の蔓延等により、急遽中止とした。会場に加えて、オンラインも併用、また完全オンラインの切り替えも想定して計画したが、やむなしであった。想定をして準備を行ったが、色々な情報も飛び交っていたようで、講師と一層の密な連絡で進めて行くことは、今後の運営でも同じ教訓である。

(6) 参加者の声（一部）

- 廃炉の問題とともに、対話の仕方も学べ、大変ためになった。
- 講師の聴講を長時間強いられ、疲れた。双方向の話し合いの時間が短い。

2.5.5 《事業5》災害復旧支援

(1) 課題

コロナ禍で規模を問わず自然災害発生した時に、支援が出来る体制が必要である。
 神奈川に居ての支援、現地に行ける時の支援、など日ごろからの備えが必要。
 また、平時から顔の見える関係を築き、情報交換と連携ができるようにして、いざというときにバランスよく支援が行えるための体制づくりが必要である。

(2) 活動目的

国内で自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に対応することを事業として明確にし、体制づくりをする。実際の活動については神奈川に居て、現地に行ってなど状況に応じて決定する。かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行い、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築いていく。

(3) 活動実績

(参加者数)

計画	実績
体制づくり。平時から他団体との情報交換。実際の活動は現地の状況に応じて決定する。	なし

(4) 会計実績 (単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	100,000	100,000	合計	100,000	0
			収支(△繰越)	0	△100,000

(5) 活動成果

台風による被災があったが、何も手を打てなかった。(前年度同様)
 コロナ禍であり、現地での災害復旧支援はできないが、現地での支援は行わなくとも、地元で出来ることがある。今後の改善課題である。(前年度同様)

(6)参加者の声 (一部)

- なし

2.5.6 《維持管理》

(1) 課題

事業を企画運営するうえで、福島県内の行政、社会福祉協議会、民間団体等との連携は不可欠である。担当者の異動や交代なども考慮して、定期的な訪問でつながりを維持することが重要である。また、当団体の維持（定例会議場、web アルバム、zoom 契約費用等）も必要。

(2) 活動目的

年 3 回は主に維持管理目的で訪問する。他 2 回は各事業の計画で訪問する。
 また、定例会議場、web アルバム、zoom 契約費用等、維持管理全般を目的とする。

(3) 活動実績 (参加者数)

計画	実績
年 4 回訪問を行う。	新型コロナ禍で訪問はできなかった。

(4) 会計実績 (単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	556,490	577,484	合計	556,490	72,884
			収支(△繰越)	0	△504,600

(5) 活動成果

新型コロナ禍であり、現地訪問は見送った。

なお、勉強会、視察研修、講演会等の現地との調整はオンラインで進め、なんとかこなすことができた。しかしながらはやり対面での調整が一番であると感じた。また他の関係先との会話などは出来ておらず、kfop 活動としては不十分であり、次年度に感染防止をした上で、維持訪問をしていきたい。

2.5.7 《その他》

2021 年度も「美味しいふくしま」(有志活動)は、コロナ禍により開催は見送られた。今後に再開を期待する。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

2.5.8 予算実績 (決算)

(1) 活動計算書



活動計算書

かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

2021年4月1日 ~ 2022年3月31日まで

(単位:円)

科目	金額					
	計画 金額(小計)	実績 金額(小計)	計画 金額(中計)	実績 金額(中計)	計画 金額(合計)	実績 金額(合計)
I 経常収益						
1. 受取会費						
受取会費	102,000	93,000	102,000	93,000		
2. 受取寄付金						
受取寄付金(一般)	200,000	229,984	200,000	229,984		
受取寄付金(目的)	0	0				
3. 受取支援金等(寄付)						
受取民間支援金1	200,000	200,000				
受取民間支援金2	100,000	100,000	300,000	300,000		
4. 事業収益						
事業1収益		0				
事業2収益		0				
事業3収益		0				
事業4収益		0				
事業5収益	0	0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
維持収益			0	0		
5. その他収益						
受取利息		10	0	10		
経常収益計					602,000	622,994
II 経常費用						
1. 事業費						
(1)人件費	0	0				
人件費計	0	0				
(2)その他経費						
事業支払負担金	0	0				
事業諸謝金	60,000	95,000				
事業源泉徴収額	8,000	3,411				
事業印刷製本費	30,000	3,800				
事業会議費	95,000	30,760				
事業旅費交通費	668,200	87,642				
事業通信運搬費	0	740				
事業消耗品費	0	0				
事業保険料	0	0				
事業支払手数料	0	1,925				
事業支払寄付金	0	0				
事業諸会費	0	2,200				
事業雑費	300,000	25,421				
その他経費計	1,161,200	250,899				
事業費計			1,161,200	250,899		
2. 管理費						
(1)人件費	0	0				
人件費計	0	0				
(2)その他経費						
管理支払負担金	0	0				
管理印刷製本費	48,000	22,620				
管理会議費	90,000	7,700				
管理旅費交通費	135,000	0				
管理通信運搬費	7,500	1,090				
管理消耗品費	0	0				
管理保険料	0	0				
管理支払手数料	0	220				
管理支払寄付金	0	0				
管理諸会費	34,200	39,314				
管理雑費	241,790	0				
その他経費計	556,490	70,944				
管理費計			556,490	70,944		
経常費用計					1,717,690	321,843
当期正味財産増減額					-1,115,690	301,151
前期繰越正味財産額					1,115,690	1,115,690
次期繰越正味財産額					0	1,416,841

(2022年3月31日 現在)



(2) 貸借対照表

貸借対照表



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

2021年4月1日 ~ 2022年3月31日まで

(単位:円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
横浜BK会費口	1,416,841		
横浜BK寄付口	0		
仮払金	0		
流動資産合計		1,416,841	
2. 固定資産			
固定資産	0		
固定資産合計		0	
資産合計			1,416,841
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	0		
前受金	0		
未払金	0		
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
役員借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,115,690	
当期正味財産増減額		301,151	
正味財産合計			1,416,841
負債及び正味財産合計			1,416,841

(2022年3月31日 現在)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

(3) 財務諸表の注記

財務諸表の注記



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

(会計期間 : 2021年4月1日 ~ 2022年3月31日まで)

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準によっています。
 資産は、口座預金(会費口、寄付口)のみ、固定資産なし。借入等の負債なし(前受、仮受を除く)

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	事業1 現地活動	事業2 連携活動	事業3 視察研修	事業4 情報発信	事業5 災害支援	事業 部門計	維持管理	合計
I 経常収益								
※1. 受取会費(新規)	0	0	0	0	0	0	93,000	93,000
【事業計画	0	0	0	0	0	0	102,000	102,000
※2. 受取寄付金(新規)	0	0	50,000	50,000	100,000	200,000	29,984	229,984
【事業計画	0	0	50,000	50,000	100,000	200,000	0	200,000
※3. 受取支援金等	0	0	100,000	100,000	100,000	300,000	0	300,000
【事業計画	0	0	70,000	230,000	0	300,000	0	300,000
※4. 受取目的寄付等	0	0	0	0	0	0	0	0
(※2助成金)【事業計画	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 事業収益(参加費)	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画	0	0	0	0	0	0	0	0
※6. 前期繰越金(寄付)	291,159	80,000	115,000	138,000	0	624,159	448,404	1,072,563
7. 前期繰越金(目的)	37,041	0	0	0	0	37,041	6,086	43,127
8. 前期繰越金(会費)	0	0	0	0	0	0	0	0
9. その他収益	0	0	0	0	0	0	10	10
経常収益計	328,200	80,000	265,000	288,000	200,000	1,161,200	577,484	1,738,684
【事業計画計	328,200	80,000	235,000	418,000	100,000	1,161,200	556,490	1,717,690
II 経常費用								
(1) 人件費	0	0	0	0	0	0	0	0
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) その他経費								
諸謝金	0	0	65,000	30,000	0	95,000	0	95,000
源泉徴収額	0	0	0	3,411	0	3,411	0	3,411
印刷製本費	0	0	0	3,800	0	3,800	22,620	26,420
会議費	0	0	0	30,760	0	30,760	7,700	38,460
旅費交通費	42,120	0	45,522	0	0	87,642	0	87,642
車両費	0	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	1,830	1,830
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	660	0	440	825	0	1,925	220	2,145
支払寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
諸会費	0	0	0	1,000	0	1,000	40,514	41,514
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	23,261	0	2,160	0	0	25,421	0	25,421
その他経費計	66,041	0	113,122	69,796	0	248,959	72,884	321,843
経常費用計	66,041	0	113,122	69,796	0	248,959	72,884	321,843
当期経常増減額	262,159	80,000	151,878	218,204	200,000	912,241	504,600	1,416,841

(※1:表示項目の金額は寄付口から会費口(事業用口座)へ振替額または予定額を示す。)

3. 目的寄付・支援金の内訳 「(限定)は使途制限ありの目的寄付・助成金等」

内容	期首残高	当期 増加額	当期 減少額	期末残高	備考
(限定)Zoom利用費用	6,086	0	6,086	0	2021年8月1日から1年:18,474円 不足分12,388円は維持管理費より支出
受取支援金1 (申請:200,000円)計画	37,041	200,000	168,959	68,082	福島135便、福島136便、第12回勉強会、第13回講演会 福島145便(視察研修8号)、福島147便(視察研修9号)
受取支援金2 (申請:100,000円)計画	0	100,000	50,000	50,000	福島145便(視察研修8号)、福島147便(視察研修9号) 第13回講演会(未使用)
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
合計	43,127	300,000	225,045	118,082	

(2022年3月31日 現在)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2021年度(R03)活動実績・2022年度(R04)活動計画≫

(4) 財務諸表の注記 (補助簿)

財務諸表の注記(補助簿)「目的別寄付、支援金(計画・実績)」



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

(会計期間 : 2021年4月1日 ~ 2022年3月31日まで)

目的別寄付 (計画・実績)						
収入			支出			
費目	計画	実績	費目	計画	実績	詳細(実績)
Zoom利用費用	6,086	6,086	維持: Zoom利用料	6,086	6,086	前年度繰越金 2021年8月1日から1年: 18,474円 不足分12,388円は維持管理費より支出
合計	6,086	6,086	合計	6,086	6,086	
収支			0			

支援金1 (計画・実績)						
収入			支出			
費目	計画	実績	費目	計画	実績	詳細(計画・実績)
受取支援金1	37,041	37,041		37,041		前年度繰越金
事業1			旅費交通費		32,120	福島135便浪江+富岡
			雑費(交流費)		4,921	福島136便(葛尾村、¥10,301の一部)
事業3	50,000	50,000	視察研修運営費		30,440	視察研修8号: 55,440円
		13,122	視察研修運営費		32,682	視察研修9号: 57,682円
事業4	50,000	50,000	勉強会運営費		36,561	7/17第12回勉強会
		18,796	講演会運営費		32,235	1/15第13回講演会 ※1
事業5※	100,000	100,000				災害復旧支援
		-13,122	事業3に計上			事業3視察研修に計上
		-18,796	事業4に計上			事業4講演会に計上
※大きな災害がない時は、事業3、4に充当する						※1: 講演会は中止となりましたが、会場費、チラシ印刷費等の支払いで活用
合計	237,041	237,041	合計	37,041	168,959	
収支			200,000 68,082			

支援金2 (計画・実績)						
収入			支出			
費目	計画	実績	費目	計画	実績	詳細(実績)
受取支援金2	50,000	50,000			25,000	視察研修8号: 55,440円
					25,000	視察研修9号: 57,682円
	50,000	50,000				講演会
						見込: 152,168円(内50,000)
合計	100,000	100,000	合計	0	50,000	
収支			100,000 50,000			

助成金 (計画・実績)						
収入			支出			
費目	計画	実績	費目	計画	実績	詳細(実績)
助成金 (災害発生時に申請計画額)						
合計	0	0	合計	0	0	
収支			0 0			

(2022年3月31日 現在)

(5) 監査報告書 (会計、事業)

監 査 報 告 書

かながわ「福島応援」プロジェクト(以下、「kfop」という。)の2021年度(令和3年4月1日~令和4年3月31日)の収支会計及び事業について監査したので報告する。

1. 監査方法の概要

役員及び会員等と意思の疎通を図るべく定例会や現地活動等に出席し、代表から状況について報告を受け、さらにホームページや重要な関係書類を閲覧し、会計及び事業について調査及び検討した。

2. 監査結果

1) 監事会計監査

会計収支元帳、預金通帳、領収書等証拠書類、財務諸表、損益計算書はすべて相違なく適正に表示されている。

収支に関して、次年度繰越金は前年度よりも30万円以上増え、残高は1,416,841円である。

2) 監事事業監査

今年度も新型コロナウイルス感染拡大をうけ、ほとんどの現地活動や関係維持のための福島訪問は見合わせられ、また講演会において中止へと至っている。

しかし一部限定的ではあるが、現地活動や視察研修は「コロナ禍のマニュアル」に沿って感染症対策をとり、関係先へも配慮や調整をして実施している。またオンラインを中心とした連携活動や情報発信をしたり、重要な会議等では会場とオンラインの両方で同時開催する等、事業の継続に努めている。

1. コロナ禍における活動の見送りや中止の影響により、繰越金は前年度に引き続き、更に増加している。一方で公共交通機関を利用した現地活動や視察研修において、参加者の交通費の負担額は増えている。以上の理由から、交通費補助の適応条件や金額の見直しを行うことが適当と考える。

2. 会員内のコミュニケーションをとる場が限られている。一方向の情報発信に終わらないよう、より参加のしやすさや対話を増やす環境作りの工夫が必要と考える。

3. マンパワー不足。関係が疎遠になっている役員や協力スタッフが関与しやすい環境作りにも工夫が必要と考える。

以上

2022(令和4)年6月7日

監事 平野香誉 

2.6 2021年度の役員・スタッフ

2.6.1 役員・スタッフ

区分	役割	氏名	兼務等	
役員	代表	渡辺 孝彦	重任	兼 会計、渉外、あゆむ会副理事長
	広報	東 尚子	重任	
		村上 幸	重任	
		私市 慎治	重任	
		長崎 羊子	重任	
監事		平野香 誉子	重任	監事（業務監査、会計監査）、記録
協力スタッフ (敬称略) 18人		森本健、矢島國紀、池田学、荒川朱美、森田清、北田美代子、岡村恭子、岩崎眞澄、柿木都、山下潔、田村武司、後藤民夫、小村清一、長田剛、福田光、武田恒男、橋本洋子、木幡四郎、		

(説明) 協力スタッフ：会員に限らず都合の着く時に事業に協力していただける方

2.6.2 事業担当

事業	事業名	主担当	
事業 1	現地活動	役員	渡辺孝彦, 東 尚子
		協力	1-3:後藤民夫, 小村清一, 池田学, 長田剛, 福田光, 北田美代子
事業 2	連携活動	役員	東 尚子, 渡辺孝彦, 長崎羊子
		協力	2-2:矢島國紀
事業 3	視察研修	役員	渡辺孝彦, 東 尚子
		協力	3-1:北田美代子, 矢島國紀
事業 4	情報発信	役員	東 尚子, 渡辺孝彦, 村上 幸
		協力	4-1:森本健, 矢島國紀, 北田美代子, 岡村恭子, 柿木都, 岩崎眞澄, 田村武司, 4-3:矢島國紀
事業 5	災害復旧支援	役員	村上 幸, 私市慎治
		協力	5-1:池田学, 荒川朱美, 5-2:矢島國紀 5-3:森田清
維持管理	維持管理	役員	渡辺孝彦, 東 尚子
		協力	6-1:森本健
(関連事業)	美味しいふくしま	役員	村上 幸, 東 尚子
		協力	7-1:岡村恭子, 山下潔, 武田恒男, 橋本洋子, 木幡四郎

(説明) 協力：会員に限らず都合の着く時に事業に協力していただける「協力スタッフ」

≪事業毎に協力していただきたい内容は異なります≫

- 【事業 1】 1-1 【現地活動】 現地活動リーダー
- 1-2 【現地活動】 活動報告作成（アンケート集計、活動報告、写真など）
- 1-3 【現地活動】 運転スタッフ（安全運転の前提）
- 【事業 2】 2-1 【連携活動】 広域避難関係の交流会、勉強会、講演会出席など
- 2-2 【連携活動】 災害等の連携活動（会議出席、情報連携など）
- 【事業 3】 3-1 【視察研修】 視察研修報告の文章起こし（word）
- 【事業 4】 4-1 【情報発信】 情報発信全般の企画、運営
- 4-2 【情報発信】 勉強会・講演会の企画、運営、報告書作成
- 4-3 【情報発信】 市民活動フェアの企画、運営、報告書作成
- 【事業 5】 5-1 【災害復旧支援】 災害復旧支援の全般（企画、運営、報告など）
- 5-2 【災害復旧支援】 災害情報収集&情報発信（メール,HP,FB など）
- 5-3 【災害復旧支援】 助成金申請～報告までの手続き
- 【維持管理】 6-1 【維持管理】 Web アルバム保存
- 【美味しいふくしま】
- 7-1 【美味しいふくしま】 調理担当、飲み物コーナー担当、写真

2.6.3 2021 年度会員推移（2022 年 3 月 31 日）状況

（単位：人）

区分		総人数	女性	男性
正会員	0/A	38 名(-6)	14 名(-3)	24 名(-3)
一般会員	1	121 名(±0)	43 名(±0)	78 名(±0)
賛助会員	2	17 名(+6)	8 名(+3)	5 名(-1)
情報発信	8	23 名(±0)	10 名(±0)	13 名(±0)
参加登録	9	91 名(+1)	35 名(±0)	56 名(+1)
合計		290 名(+1)	110 名(±0)	180 名(+1)

（補足）（）内は前年度 2021 年 3 月 31 日対比

2.7 2021 年度総括（令和 3 年）

はじめに、2021 年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が続き、福島に赴くこと、また神奈川県内での行動も大きく制限された。

対策として、前々年度末からのオンラインを取り入れにより、定例会および総会、勉強会等の運営、実施には支障なかった。また、コロナ禍での活動マニュアルも有効に機能した。

しかしながら、課題は 2 点、

一つは、11 年目を迎え、コロナ禍で現地での活動も多くできない中であって、メンバーの気持ちも少しずつ離れていっているように直に感じている。福島と長く関わる、見届けて行くことを活動の大きな方針としているが、今後の発信が課題である。

当団体は、福島県内外の行政、団体、個人と広く繋がりがある。そして、福島を伝える、永く関わっていく。その繋がり、想いは当団体の特徴であり、寄り添い、活動の柱である。

二つ目は、前述の通り、当団体は福島県内外の方々との繋がりを大事にしている、しかしながらコロナ禍で、現地訪問が行えない状況にある。行政の方々も交代が進んでいる、現地の方々とも対面ができていない、繋がり維持が大切な時期でもある。次年度に訪問の機会を持ち、またオンラインの手段も確認し、繋がり維持に努めていきたい。そして神奈川に避難を余儀なくされている多くの方々の繋ぎ手として寄り添っていきたい。

2.7.1 現地活動

多くの福島便の実施を見送った、現況やむなし、次年度につなげていく。

2.7.2 連携活動

長くご支援をいただいている azbil みつばち倶楽部カンファレンスに参加させていただいたことはとても感謝するところである。今後も情報の発信に努めていきたい。

2.7.3 視察研修

コロナ禍の活動マニュアルを活用して、小規模ではあるが 2 回実施することができた。活動の様子はホームページ掲載済である。正式の報告は次年度活動の中で完了していきたい。

2.7.4 情報発信

総会、勉強会を計画の通り実施した。講演会はオミクロン株の蔓延によりやむなく中止となった。今後ともオンラインも含めて福島県の講師をお招きし、情報発信に努めて行く。

また、神奈川の市民活動フェアの担当が不足している継続しての課題である。

2.7.5 災害復旧支援

前年同様に動くことができなかった。コロナ禍の中でできることを継続して実現していく。

また、災害復旧支援の事業担当の不在・不足は至近の課題である。

2022 年 3 月 31 日

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

代表 渡辺孝彦／スタッフ一同